

■【トピックス】
中国経済崩壊？



中国の経済危機が注目を集めています。経済新聞を中心に中国経済を称賛してきたメディアも論調が変化してきました。最近では中国の若者(16~24才)の失業率が実は50%に近いのではないかという話もあります。

それにもまして中国の不動産デベロッパーの倒産や地方政府の2,000兆円に上る債務問題がより危機の深刻さを示しています。今後は中国経済の長期低迷に備えることが必要になりそうです。

■【ビジネス・アイ】
資本コスト

社長 「最近、事業承継とか考えているんだけど、当社の価値ってどのぐらい何だろうかと考えたりしているんだよ」

花野 「そうですね。企業価値の評価方法にはいろいろありますが、買取側の投資家目線でいうと将来その企業がどのぐらいのキャッシュを産むかということが重要になりますね」

社長 「よくいうDCF法とかいうやつだね」

花野 「そうですね。その際に重要なのは割引率に用いる資本コストですね」

社長 「資本コストって？」

花野 「ざっくりいうと、企業は、株主からの出資や銀行からの融資などで資金調達しますが、その際の配当とか利息のコストを資本コストといいます」

社長 「そうなんだ」

花野 「上場企業では、今、この資本コストをベースに、経営を行うことが求められています。資本コストを賄えないような事業からは撤退するとかの意思決定に使われます」

社長 「売上とか利益だけが良くてダメなんだね」

花野 「そうですね。経営にも投資家目線が求められているんですよ」

社長 「上場会社は大変だね」

花野 「前にお話したことがあるROIC (Return on invested capital) という指標が資本コストを使った経営指標の代表になりますね」

社長 「ここで繋がってくるんだね」

■【今月のキーワード】

資本コスト

資本コストとは企業が事業を行うために調達した資本に対してかかるコストのことです。ここでいう資本とは、株主より出資を受けた株主資本だけでなく、債権者から調達した負債も合わせたものを意味します。そのため、そのコストも負債に対する利息だけでなく、資本に対する配当や期待収益もコストとして含めます。一般的にはWACC (ワック: Weighted Average Cost of Capital) と呼ばれる資本コストと負債コストを加重平均したものがよく使われます。

■【今月の1冊】

『図解&ストーリー「資本コスト」入門』

岡 俊子 著

中央経済社 ¥2600

これまで企業を評価する指標としては、損益計算書の数値を基にしたものばかりでした。しかし時代はかわりました。

上場会社を始めとして投資家目線の資本効率を測る資本コストが注目を集めています。しかし資本コストを分かりやすく説明した書籍がない中、この本は対談形式で素人にも分かりやすく説明しています。入門に最適です。



■【編集後記】

先日、ある大学病院のICUから突然に電話がきてビックリしました。知人(60歳)がコロナに感染して重症とのことでした。ワクチン打たない主義の知人でしたから病状が危惧されます。今できることは祈ることだけです。まだまだコロナは終わりませんね。

『経営のセカンド・オピニオン』 vol.199 毎月1日発行)

●定価:2400円/年 ●発行日:2023.10.1 ●発行人:花野康成

●編集・発行:有限会社ビジネス・インスパイア

〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目1番30号錦マルエムビル5F

TEL:052-205-6361 FAX:052-204-8808